

令和6年度 江津市立川波小学校 学校評価 教育目標「豊かな心とたくましい実践力を身につけた子どもの育成」								
重点目標	短期目標	目標達成のための計画		自己評価		学校関係者評価		次年度に向けた改善策
		具体的な取組	評価の観点	取組状況及び達成状況	評価	取組状況及び達成状況	評価	
する基本的な生活習慣を身につける。《基本的な生活習慣》	基本的な生活習慣と読書習慣を身につける。	○ より良い生活習慣を身につける。 ○ メディアをコントロールする力を身につける。 ○ 学校、家庭における読書習慣を身につける。	□子どもの学びや成長について家庭と情報共有を行っている。 □より良い生活習慣を身につけるための取り組みをしている。 □メディアを適切に扱うための指導やPTA研修などを行っている。 □読書習慣を身につけるための取組を行っている。 □読書が習慣化されるような環境づくりがなされている。	・HPやTetoru等を通して学校からの情報共有は十分なされている。 ・「のびっ子カード」「家庭学習の振り返り表」などの取組がなされている。 ・親子一緒に受講したメディアの研修会は効果的であった。 ・学校では読書を楽しみながら、習慣化を目指して取り組んでいる。 △学校で身につけた良い習慣を家庭に持ち帰る取組が不十分。	B	・読書週間、家庭学習の定着をめざした取組は評価できる。家庭での定着に向けて継続し、さらに意欲向上につながる取組を期待したい。 ・メディア教育はさらに一層のコントロール的な継続指導を望む。 ・Tetoru等で学校の様子が共有されていて良い。 ・親子共に受講する研修会は効果的であり、今後も継続を希望する。 ・タブレットの持ち帰りについて読書環境の充実と合わせ工夫できるアイデアを期待したい。	A	・貸出冊数のみにこだわらず、読書活動の時間と内容の充実に取り組む。 ・授業中も本を借りて共に読む時間を担任が設定する。 ・家勉や強化週間について検証できる質問を保護者、児童、教職員のアンケート項目に入れ、意識の向上を図る。 ・学校の読書環境を共有するため、図書館を見てもらう機会をつくる。（PTAの部会を図書館で行う等） ・情報発信については、HPやTetoruに合わせ、紙媒体の取り入れ方について再検討したい。 ・タブレットの持ち帰りについて、頻度や曜日を共有する。
てる。《人権同和教育・生徒指導》	安心・安全な環境の中で、他者の気持ちを考え、自分はどうすべきか考える。	○ 安心・安全な環境をつくる。 ○ 人権教育を積極的に推進する。 ○ 道徳教育の充実をはかる。 ○ 個に応じた支援を充実させる。	□学校の教育目標や教育方針が示されている。 □校内外の安全点検が行われ、管理されている。 □児童を支えるための取組がなされている。 □教育相談を充実させ、子どもに寄り添う指導をしている。 □自分や他人の気持ちを考える道徳の学習を行っている。 □自分に何ができるか考える学習を行っている。	・校舎の老朽化に伴い、安全点検、補修等を細かく行いケガ、事故の防止に努めている。 ・道徳の学習では、自分や他人の気持ちを考える授業がなされている。 ・先生は話しやすく、親身になって悩みに対応していると答える割合が児童、保護者ともに高い。 △学習の難しさやいじめを受けた時に先生への相談を躊躇する児童がいる。	B	・人権教育、道徳教育の充実に向け、自他を大切にする授業や、個に応じた指導がなされている。更に期待する。 ・児童、保護者、先生の連携がとれている。 ・登下校の安全に配慮していて対応も早く安心できる。 ・校舎の安全点検等、安全への配慮が細やかであり補修等が速やかに行われていて感謝する。 ・先生への相談がしにくい状況がまだ続いている。（友達関係）	A	・児童の困り感に寄り添い、繰り返し教員から声をかけたり、誰にでも相談してよいことを積極的に伝えたりする等、より細やかな指導を心がける。 ・児童と教職員の親和性の高さや機動性の高さを生かし、今後も教育目標達成に向け更に努力する。 ・SCの利用を促す。 ・今後も情報共有を積極的に行い、学校、保護者、地域と協力しながら児童の育成に取り組む。 ・道徳の授業づくりを大切にし、道徳教育の充実を図る。
習の充実《》	ねばり強く学び、さらに充実・深化しようとする児童を育てる。	○ 学力調査結果を基にした課題を設定し、解決に取り組む。 ○ 個別最適な学びに向けた授業改善をはかる。 ○ ICTを取り入れ学習ツールとして活用する。	□学校の課題を明確にし、解決のための手立てが明確になっている。 □学校行事に積極的に取組む指導がされている。 □家庭学習の内容が充実しており、家庭での学習習慣作りにつながっている。 □どの子にもわかりやすい授業が行われている。 □ICTが適切に活用されている。	・文章を端的にまとめる、わかりやすく話すことを共通の課題として取り組んでいる。 ・学校行事に自分から取り組んだと答えた児童が90%を超える。 ・授業は分かりやすく、家庭学習は適切と答える児童が多い。 ・ICTを学校の授業の中で積極的に取り入れた。 △タブレットが家庭では適切に使われていない、重量があり持ち帰りには不便だといった意見が見られる。	B	・わかりやすい授業が良い。 ・学校行事や学級の活動への積極的な取組があり、児童の言動から先生方の日頃の指導が行き届いていると感じる。 ・児童が自ら何事にも取り組む姿勢を育む環境や学習意欲が高まる取組に今後も努めてもらいたい。 ・家勉等の表彰が児童の意欲につながっている。 ・支援員の充実が全ての児童にわかりやすい授業という観点からも非常に喜ばしい。 ・ICTは積極的に活用してどの児童にも合った学びを充実してほしい。 ・タブレット使用の更なる充実のため、細かいルール作りも期待する。	A	・学習や授業づくりについては、これまでの指導を続けることに加え、指導内容を保護者にも伝える工夫をする。 ・ドリル類は今後も購入し、「書く」と「タブレット」のバランスをとる。紙面に「書く」ことが大事な学習もあるので、本校としての方針を検討したい。 ・タブレットを使ったICTの活用は、今後も推進する。 ・家庭でタブレットが適切な活用をされるように対策を検討する。